

島根リハビリテーション学院 入学式

島根リハビリテーション学院の入学式が4月8日に行われました。

27期目となる今年は、理学療法学科29名、作業療法学科13名の計42名が入学しました。

新入生を代表して、小笠原朱音さん(作業療法学科)が、「知識や技術を身に付け、患者さん一人ひとりに寄り添い、リハビリを通して自分らしさを取り戻すためのサポートができる作業療法士を目指し、仲間と共に切磋琢磨していきます。」と誓いの詞を述べました。

入学生はこれから、それぞれの夢の実現に向けて奥出雲で4年間の学校生活を送ります。



島根デザイン専門学校 入学式

島根デザイン専門学校の入学式が4月5日に行われました。

今年、新設された「デジタルデザイン科」「アート科」に、日本のみならずモンゴル、ベトナム、パンナム、パナマ、ブラジル、ペルーなど8か国から、36名の学生たちが入学しました。

新入生を代表して、佐々木和仁(ささきあいと)さんが、「豊かな自然と伝統のある奥出雲の地で、様々なことを学び経験し、自らの力となるよう努力を重ね、何事にも全力で取り組みます。時には助け合い、協力しながら、それぞれの目標に向かって日々精進します」と抱負を述べました。

授業はすでに始まっており、国境を感じさせないあたたく友好的な雰囲気の中、出身国の特色や個性が生きた自己紹介や発表が行われています。今後は、島根リハビリテーション学院との合同授業や、地域のイベントへの参加を予定しています。



仁多地域統合 小学校校名候補②

意見書提出

仁多地域統合小学校の校名候補の意見書が4月5日、仁多地域学校再編統合推進委員会総務部会の和久利司部長から糸原町長および景山利則町議会議長に提出されました。

校名候補は、同委員会が昨年9月20日から11月30日にかけて募集し、2回の選考を経て応募のあった55件から3候補を選びました。

今後は令和8年4月の開校に向け、町及び議会において校名が協議されます。

提出された校名候補

学校名	よみがな
仁多	にた
爾多四季	にたしき
六成	ろくせい



▲意見書を提出する和久利部長(右)

ごうぎん×バイウィル×奥出雲町 「カーボンニュートラル実現に 向けた連携協定」を締結

奥出雲町と株式会社山陰合同銀行、株式会社バイウィルとの間で、「カーボンニュートラル実現に向けた連携協定」を締結し、4月11日に締結式が役場仁多庁舎で行われました。

この協定は、J-クレジットをはじめとした環境価値を活用し、地域のカーボンニュートラルの実現を目指すことを目的としています。

今後は、ごうぎん、バイウィルとともに、環境価値に関する研修会の開催や、環境価値を活用した新たなビジネスモデルの創出等に取り組んでいく予定です。

- J-クレジットとは、脱炭素活動により得られた二酸化炭素等の温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジットとして国が認証したものの環境価値とは、再生可能エネルギーについて、エネルギーそのものの価値に加え、地球温暖化の要因とされている二酸化炭素を排出しないという付加価値のこと
- カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出量と吸収量を均等させること

奥出雲町×ごうぎん×バイウィルによる
カーボンニュートラル実現に向けた連携協定締結式
～奥出雲町内における森林系J-クレジット創出～



▲山陰合同銀行 取締役専務執行役員 吉川浩氏(左)と糸原町長(中央)とバイウィル 代表取締役CEO 下村雄一郎氏(右)

「奥出雲まちごと 子育て応援金」贈呈

町内小学校新1年生64名の入学に際し、町から保護者へまちごと子育て応援金を贈呈しました。

町では少子化対策と子育て世帯の経済的負担軽減策として、お子様の誕生時と小学校入学時に10万円の商品券を贈呈しています。

保護者からは、「子どもが成長するにつれ何かと出費がかさむので助かります」という声が聞かれました。

町では子育てが安心してできるまちな奥出雲を目指し、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を行います。詳しくは奥出雲子育て情報ポータルサイト「まちごと子育て奥出雲」をご覧ください。



▲入学式の様子(三成小学校)



学校法人マヤ学園 島根デザイン専門学校との 包括的連携協定を締結

奥出雲町は、学校法人マヤ学園 島根デザイン専門学校と奥出雲創生に関する包括的連携協定を締結し、調印式が4月5日に役場仁多庁舎で行われました。

この協定は、「奥出雲創生」に向け、お互いの資源を活用し、デジタル・デザイン等の技術を活かした地域課題解決、人材育成、多文化共生などの諸分野で連携・協力し地域社会の発展に寄与することを目的としています。

協定締結により、島根デザイン専門学校のデジタル技術や人的支援等を得ながら町の活性化が図られると共に、島根デザイン専門学校の学術・研究が進展し、世界に羽ばたく人材の育成に資することが期待されます。

糸原町長は、「協定の締結により、幅広い分野での連携事業に一体となっており、取り組みたい」と述べました。

町内の各種学校、企業、地域の方々との様々な交流が期待されます。



▲マヤ学園島根デザイン専門学校 井上理事長(左)と糸原町長(右)